



2024年4月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年9月6日

上場会社名 株式会社アスカネット 上場取引所 東
 コード番号 2438 URL <https://www.asukanet.co.jp>
 代表者（役職名）代表取締役社長（氏名）松尾 雄司
 問合せ先責任者（役職名）専務取締役CFO（氏名）功野 顕也（TEL）082-850-1200
 四半期報告書提出予定日 2023年9月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2024年4月期第1四半期の業績（2023年5月1日～2023年7月31日）

（1）経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|---------------|-------|-----|------|-------|------|-------|--------|-------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2024年4月期第1四半期 | 1,609 | 4.3 | 28 | △45.1 | 34 | △38.6 | 22 | △40.5 |
| 2023年4月期第1四半期 | 1,543 | 5.2 | 52 | 24.3 | 56 | 32.0 | 38 | 35.6 |

| | 1株当たり 四半期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益 |
|---------------|-----------------|----------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 2024年4月期第1四半期 | 1.38 | — |
| 2023年4月期第1四半期 | 2.30 | — |

（注）潜在株式調整後1株当たり四半期純利益につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（2）財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|---------------|-------|-------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 2024年4月期第1四半期 | 6,724 | 5,938 | 88.3 |
| 2023年4月期 | 7,134 | 6,203 | 86.9 |

（参考）自己資本 2024年4月期第1四半期 5,938百万円 2023年4月期 6,203百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|--------------|--------|--------|--------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2023年4月期 | — | 0.00 | — | 9.00 | 9.00 |
| 2024年4月期 | — | — | — | — | — |
| 2024年4月期（予想） | — | 0.00 | — | 7.00 | 7.00 |

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年4月期の業績予想（2023年5月1日～2024年4月30日）

（%表示は、対前期増減率）

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|----|-------|-----|------|-------|------|-------|-------|-------|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 7,330 | 5.1 | 495 | △15.4 | 505 | △18.3 | 353 | △26.7 | 21.28 |

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料6ページ「四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

| | | | | |
|----------------------|------------|-------------|------------|-------------|
| ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む) | 2024年4月期1Q | 17,464,000株 | 2023年4月期 | 17,464,000株 |
| ② 期末自己株式数 | 2024年4月期1Q | 1,022,257株 | 2023年4月期 | 842,257株 |
| ③ 期中平均株式数 (四半期累計) | 2024年4月期1Q | 16,570,421株 | 2023年4月期1Q | 16,784,101株 |

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の数値は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績の前提となる条件及び業績予想の利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|--------------------------|---|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 3 |
| (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 3 |
| 2. 四半期財務諸表及び主な注記 | 4 |
| (1) 四半期貸借対照表 | 4 |
| (2) 四半期損益計算書 | 5 |
| (3) 四半期財務諸表に関する注記事項 | 6 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 6 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 6 |
| (四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) | 6 |
| (セグメント情報等) | 7 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、経済活動の正常化が進んだ一方で、資源価格の上昇や海外経済の下振れリスクなどの懸念材料により、先行きは依然として不透明な状況で推移しております。

このような環境の中、当社は、景気動向に左右されにくい葬祭市場に対し、遺影写真等画像映像のデジタル加工や通信出力サービスを主に提供するフューネラル事業、1冊から本格的写真集という新しい写真のアウトプット手法を提案するフォトブック事業、空中結像という今までにないユニークな技術で、新しい市場を創造し、夢の実現を目指す空中ディスプレイ事業、それぞれに位置づけや特色が異なる三つの事業を展開してまいりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。各セグメントの業績数値にはセグメント間の内部売上を含んでおります。

(フューネラル事業)

当事業におきましては、全国的な葬儀件数は前期からの反動減が見られたものの、自社営業による新たな葬儀社との契約獲得が順調に進んだため、主力である遺影写真加工サービスは堅調に伸びました。それに伴い、額やペーパーなどのサプライ品の売上も順調に増加いたしました。

葬儀市場にITテクノロジーを活用した「葬テック」としてリリースしております「tsunagoo」ではサービスサイトをリニューアルしました。6月に開催された展示会「フューネラルビジネスフェア」に出展し、「tsunagoo」のメリットやピント復元技術の紹介を中心に訴求いたしました。

利益面につきましては、人員不足になっておりました画像加工部門のオペレーターを積極的に採用したこと、及び前期末にベースアップを実施したことから人件費が増加したため、セグメント利益は減少いたしました。

以上の結果、売上高は718,673千円（前年同四半期比106.6%）、セグメント利益は119,732千円（前年同四半期比90.0%）となりました。

(フォトブック事業)

当事業では、プロフェッショナル写真家向け市場は「アスカブック」、一般消費者向け市場は「マイブック」ブランドで展開しております。また、スマートフォンで撮影された写真からフォトブックや写真プリントをOEM供給しております。

プロフェッショナル写真家向け市場では、主力であるウェディング向け写真集は新型コロナウイルス感染症拡大の影響から脱却し正常化しており、堅調に推移いたしました。また、家族写真や子ども写真などスタジオ向け写真集も堅調に推移したため、売上は前年同四半期実績を上回りました。取組みとしましては、オンラインセミナーの実施や、「PHOTONEXT2023」への出展、データ納品システム「Grandpic（グランピック）」への新機能追加などの施策を実施してまいりました。

一方、一般消費者向け市場は、海外旅行の回復遅れやマスク着用の常態化による撮影機会減少の影響を受け、自社ブランド「マイブック」、OEMとも厳しい環境が継続しており、売上は前年同四半期実績を下回りました。

利益面につきましては、原材料価格高騰や人件費上昇の影響を受けたものの、各種改善施策の効果や減価償却費の減少などにより、セグメント利益は増加いたしました。

以上の結果、売上高は858,013千円（前年同四半期比101.3%）、セグメント利益は159,454千円（前年同四半期比106.7%）となりました。

(空中ディスプレイ事業)

当事業は、空中結像技術を用いた新しい画像・映像表現により市場を創造することを目指しており、独自技術により空中結像を可能にする「ASKA3Dプレート」について、ガラス製、樹脂製それぞれを開発、製造、販売しております。

営業面につきましては、国内は自社営業を主として、海外は代理店を主として販売を推進しております。国内におきましては、6月には「第13回 コンテンツ東京2023 先端デジタルテクノロジー展」に出展し、等身大キャラクター表示による接客ソリューションや空中アーケードゲームなどの用途提案をいたしました。また、広島で開催されましたG7サミットメディアセンターでのデモ設置や企業受付での設置実績がありました。海外におきま

しては、新型コロナウイルス感染症拡大による影響を長く受けておりました中国代理店においても営業活動がほぼ正常化いたしました。5月には、タイのバンコクにて開催された展示会「InfoComm Asia 2023」に出展しました。中東代理店経由でクウェートの銀行への空中ディスプレイの導入が進みました。主にガラス製ASKA3Dプレートの売上が中心となり、前年同四半期実績を上回る結果となりました。

製造・開発面につきましては、樹脂製において310mmサイズASKA3Dプレートの量産試作が進み、また、環境性能に優れた素材での製造開発を進めてまいりました。また、自社技術開発センターでのガラス製ASKA3Dプレートは徐々に大きなサイズの試作にチャレンジしてまいりました。

損益面につきましては、国内外展示会の出展による広告宣伝費や品質管理体制強化のための人件費、及び特許関連費用が増加した結果、セグメント損失は前年同四半期実績に比べ拡大いたしました。

以上の結果、売上高は34,372千円（前年同四半期比148.0%）、セグメント損失は86,792千円（前年同四半期は76,542千円の損失）となりました。

以上の結果、売上高は1,609,174千円（前年同四半期比104.3%）となり、利益面につきましては、全般的な人件費の増加及び新規ビジネス開発機能を有している戦略企画部の活動拠点「xLab」の設置や情報システム関連費用の増加などにより、経常利益は34,741千円（前年同四半期比61.4%）、四半期純利益は22,932千円（前年同四半期比59.5%）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第1四半期会計期間末における資産は、前事業年度末に比べ410,036千円減少し、6,724,822千円となりました。これは主に、現金及び預金が417,920千円減少したことによるものであります。

当第1四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べ145,589千円減少し、786,172千円となりました。これは主に、未払法人税等が67,400千円、賞与引当金が100,500千円減少したことによるものであります。

当第1四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ264,447千円減少し、5,938,650千円となりました。これは主に、四半期純利益を22,932千円計上した一方で、剰余金の配当149,595千円、自己株式の取得149,417千円があったことによるものであります。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年6月9日に発表いたしました2024年4月期業績予想については、現時点において変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

| | 前事業年度 (2023年4月30日) | 当第1四半期会計期間 (2023年7月31日) |
|--------------|-----------------------|----------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 2,049,027 | 1,631,106 |
| 受取手形及び売掛金 | 886,554 | 819,124 |
| 商品及び製品 | 477,047 | 550,806 |
| 仕掛品 | 185,485 | 158,002 |
| 原材料及び貯蔵品 | 89,298 | 89,559 |
| その他 | 60,002 | 51,375 |
| 貸倒引当金 | △1,793 | △2,154 |
| 流動資産合計 | 3,745,622 | 3,297,820 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物（純額） | 873,048 | 861,604 |
| 機械及び装置（純額） | 415,124 | 417,903 |
| 土地 | 844,060 | 844,060 |
| その他（純額） | 184,668 | 214,446 |
| 有形固定資産合計 | 2,316,903 | 2,338,015 |
| 無形固定資産 | 219,310 | 220,911 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 634,410 | 646,800 |
| その他 | 218,613 | 221,275 |
| 投資その他の資産合計 | 853,023 | 868,075 |
| 固定資産合計 | 3,389,237 | 3,427,002 |
| 資産合計 | 7,134,859 | 6,724,822 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 187,109 | 167,640 |
| 未払金 | 208,545 | 239,839 |
| 未払法人税等 | 87,200 | 19,800 |
| 賞与引当金 | 193,800 | 93,300 |
| その他 | 245,681 | 256,629 |
| 流動負債合計 | 922,337 | 777,210 |
| 固定負債 | | |
| 退職給付引当金 | 5,351 | 5,248 |
| その他 | 4,072 | 3,713 |
| 固定負債合計 | 9,424 | 8,961 |
| 負債合計 | 931,761 | 786,172 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 490,300 | 490,300 |
| 資本剰余金 | 624,486 | 624,486 |
| 利益剰余金 | 5,561,278 | 5,434,615 |
| 自己株式 | △487,857 | △637,274 |
| 株主資本合計 | 6,188,207 | 5,912,127 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 14,890 | 26,522 |
| 評価・換算差額等合計 | 14,890 | 26,522 |
| 純資産合計 | 6,203,097 | 5,938,650 |
| 負債純資産合計 | 7,134,859 | 6,724,822 |

(2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

| | 前第1四半期累計期間 (自 2022年5月1日 至 2022年7月31日) | 当第1四半期累計期間 (自 2023年5月1日 至 2023年7月31日) |
|------------|---|---|
| 売上高 | 1,543,046 | 1,609,174 |
| 売上原価 | 825,993 | 891,673 |
| 売上総利益 | 717,052 | 717,501 |
| 販売費及び一般管理費 | 664,725 | 688,786 |
| 営業利益 | 52,327 | 28,714 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 600 | 1,213 |
| 受取配当金 | 600 | 675 |
| 受取手数料 | 77 | 67 |
| 為替差益 | 2,749 | 4,026 |
| その他 | 524 | 509 |
| 営業外収益合計 | 4,552 | 6,491 |
| 営業外費用 | | |
| 自己株式取得費用 | 293 | 448 |
| その他 | — | 16 |
| 営業外費用合計 | 293 | 465 |
| 経常利益 | 56,586 | 34,741 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | 0 | 73 |
| 特別損失合計 | 0 | 73 |
| 税引前四半期純利益 | 56,586 | 34,667 |
| 法人税等 | 18,047 | 11,735 |
| 四半期純利益 | 38,538 | 22,932 |

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期累計期間(自 2022年5月1日 至 2022年7月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | | 調整額 (注) 1 | 四半期 損益計算書 計上額 (注) 2 |
|-----------------------|--------------|--------------|----------------|-----------|--------------|------------------------------|
| | フューネラル 事業 | フォトブック 事業 | 空中ディス プレイ事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 674,069 | 845,753 | 23,223 | 1,543,046 | — | 1,543,046 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | — | 1,478 | — | 1,478 | △1,478 | — |
| 計 | 674,069 | 847,232 | 23,223 | 1,544,524 | △1,478 | 1,543,046 |
| セグメント利益 又は損失 (△) | 133,016 | 149,430 | △76,542 | 205,905 | △153,578 | 52,327 |

(注) 1 セグメント利益の調整額△153,578千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

当第1四半期累計期間(自 2023年5月1日 至 2023年7月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | | 調整額 (注) 1 | 四半期 損益計算書 計上額 (注) 2 |
|-----------------------|--------------|--------------|----------------|-----------|--------------|------------------------------|
| | フューネラル 事業 | フォトブック 事業 | 空中ディス プレイ事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 718,673 | 856,669 | 33,832 | 1,609,174 | — | 1,609,174 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | — | 1,343 | 540 | 1,883 | △1,883 | — |
| 計 | 718,673 | 858,013 | 34,372 | 1,611,058 | △1,883 | 1,609,174 |
| セグメント利益 又は損失 (△) | 119,732 | 159,454 | △86,792 | 192,394 | △163,679 | 28,714 |

(注) 1 セグメント利益の調整額△163,679千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。